

新 春  
特 集

# にいがた



(題字は長谷川市長)

市章



港のしるし船と中央の五をもって、安政五年通商条約により指定された五港を意味し、これに雪環を頂かせて五港の一つ新潟をあらわす。

発行日 毎週日曜日 発行所 新潟市役所 〒951 編集 企画部広報課  
学校町通1-602-1 印刷 印刷第一印刷所



寒さなんか

へっちやらだ〜い

21世紀まで、ちょうど10年。市内の子どもたちは、毎日、元気に、たくましく育っています。はだかかて体を寄せ合い、「お〜しくらまんじゅう、おっされてなくなッ!」と寒さもなんのその。発展し続ける、明るい新潟市の未来が見えてきます。(写真は市立白山保育園のちびっ子たち)

## 夢と誇りが持てるまちづくり



新潟市長  
長谷川 義明

市民の皆さん、あけましておめでと〜ございます。新年を迎え、皆さんのご健勝を心からお喜び申し上げます。

私は、市長に就任して初めての新年を迎え、人間を大切にしたい潤いとやすらぎに満ちた魅力と活力のあるまち、夢と誇りがもてるまちづくりに、心を新たに、取り組んでまいりたいと思います。

新潟市は昨年、三月に五十年後の市民へのメッセージを納めたタイムカプセルを埋設、七月には新水族館「マリリンピア日本海」がオープンし、皆さんと共に祝いました。また、二十一年記念事業のフィナーレを飾り、次の一〇〇年に向けて新たなスタートをきる事ができました。

また、二十一世紀への礎となる大型プロジェクトのうち国際化の拠点となる空港の滑走路二五〇メートルへの延長、新潟市の新しいシンボルNEX T21の建設、東西新潟間を結ぶ重要な交通路として期待されている万代橋下流連絡路・港口部ルートなどの事業が着工され、一日も早い完成が待ち望まれております。

一方、在宅介護手当の支給など福祉の拡充にも努め、また、国際交流の面においては、市民レベルの交流を積極的に支援するための新潟市国際交流協会を設立、やけどの坊やアレクセイちゃんの治療の支援、ソ連極東の海の玄関口ウラジオストク市との姉妹都市締結へ向けた合意など活発な交流を展開し、国際都市をめざす新潟市にとって大きな成果がみられました。

これからの市政には、快適で潤いのあるまちづくりへ向けた都市基盤の整備、お年寄りや体の不自由な人などに対する福祉施策の充実、経済や文化・スポーツほかの幅広い、具体的に実り多い国際交流など推進しなければならぬ課題が数多くあります。とりわけ、市民の要望が強い公共下水道の整備、市民文化会館の建設、大学の誘致などは早急に推進していかなければならないと思っております。

ただいま、平成三年度の予算編成の作業に取り組んでいるところでありますが、限りある財源のもとで、できる限りの創意と工夫をこらし、実現可能なものから新年度予算に反映させ、ふるさと新潟の新たな発展に全力を注いでまいりたいと考えております。市民の皆さんのご力添えを賜りますようお願い申し上げます。年頭にあたり、市民の皆さんのご多幸をお祈り申し上げます。ごあいさついたします。

平成三年 元旦